

一人ひとりが生き生きと暮らす元気な神埼を。市民の立場で、住みよいふるさとづくりに取り組んでいる団体をシリーズで紹介します。

NPO法人「宅老ちよだひまわりの会」

代表の古川雅子さんの話の中で「自然体」という言葉が何度も聞かれました。

「あなたらしく、わたしらしく、普通の暮らしを地域で支え合う」というのが会のモットー。お世話をするボランティアも顔見知り、施設に来たという感じはなく、会話もスムーズにはずみずみです。



食事の準備をするスタッフ

家庭の雰囲気でお世話 高齢者のお世話

建物は築100年近い大きな古民家。最近の施設のように機能的ではないが、かえってそれが、家庭の延長といった雰囲気を醸し出しているようです。お年寄りからも「ホッとする」「実家に帰ってきたようだ」という声が聞かれるということでした。

「宅老ちよだ」は最初、助け合いのボランティアからスタートしましたが、2000年に法人格を取得、定員15人の通所介護事業所にもなっています。また5年後には町内に2軒目の「あらこの家」も開設しました。

現在利用者は約50人。スタッフは介護職員20人とボランティア30人ほど。介護のほか、食事づくり、レクリエーションの手伝い、話し相手などを務めています。希望者には入浴サービスも行っていますが、一人ひとりお湯を入れ換えるというのでも、暮らしの延長としての考え方からです。



ゲームを楽しむお年寄り

「制度が行き届かないところも、私たちで出来る範囲でやっていきたい」という古川さん。経費的には賛助会員の支えが大きいとのことですが、目下の悩みは「屋根の傷みが激しいこと」と、笑いながら話されました。活動は老人福祉にとどまりません。「昨年からは福祉のまちづくり推進事業」に取り組み、「こすもす会」「地域の子ども守り隊」を発足させ、キトサン入り泥団子を作ってクリークの浄化や、七夕飾り、スイカ割りなどの交流活動を行なっています。

「近隣のくらしの助け合いが、子どもから高齢者まで、ふれあいの中から生まれたいいな」というのが、古川さんの願いだそうです。

高齢者やその家族などが住み慣れた地域社会の中で安心して暮らしていけるよう、宅老所を中心に高齢者の認知症、寝たきりを予防する事業等を行い、福祉の増進に寄与することを目的とする

NPO法人「宅老ちよだひまわりの会」

代表 古川雅子 神埼市千代田町直鳥1500 TEL0952-44-6454



古川雅子さん

